

1. 体制

事務員7名（企画・総務・人事・広報・経理・購買・施設・設備管理）、清掃員7名、10月より支部事務局業務移管に伴い調理員3名（調理師1名・調理補助2名）が加わり17名体制で臨んだ。

2. 職員数推移

職 種	2012年 3月末	2013年 3月末	2014年 3月末	2015年 3月末	2016年 3月末	2017年 3月末	2018年 3月末	2019年 3月末	2020年 3月末	2021年 3月末
医師	14	13	12	13	12	11	12	12	11	11
看護師・准看	82	81	83	85	88	91	90	92	93	91
看護助手	15	20	22	23	22	21	21	24	23	25
薬剤師	4	5	6	6	6	6	7	5	7	7
臨床検査技師	9	8	10	9	10	10	11	11	10	10
放射線技師	5	5	6	7	6	7	6	6	6	6
理学療法士	11	14	17	17	18	19	20	20	20	21
作業療法士	10	13	15	17	19	19	18	20	20	20
言語聴覚士	2	4	5	5	6	6	6	6	5	5
介護福祉士	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2
管理栄養士	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4
MSW	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4
事務員	19	19	18	28	26	26	29	28	29	28
労務員	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
調理員										3
介護支援相談員			1	1	1	1	1	1	1	1
病棟クラーク									3	3
清掃員			1	7	7	7	7	7	7	7
合計	177	189	203	226	230	234	240	245	247	250

※医師は当院所属で熊本病院への派遣医師、熊本病院からの派遣常勤医師含む
 ※委託職員除く ※ME（臨床工学技師）は熊本病院からの派遣

3. 2020年度採用状況（2021年4月1日採用）

職種	受験者数	採用数
看護師	5	5
理学療法士	2	1
事務職	1	1

※受験者数は書類選考後の人数

4. 階層別研修会

研修会名	開催予定日	対象	目的
新入職員 研修会	4月1日(水) 2日(木)	新入職員 10人	医療人、済生会職員としての基本的事項を身につける
2年目フォロー研修	10月9日(金)	2年目職員 5人	病院・自部署の課題を把握し、その解決に向けた具体的取組みを検討する
係長・主任研修会	11月14日(土)	係長・主任 25人	病院・自部署の課題を把握し、その解決に向けた具体的取組みを検討する
幹部リーダー研修	12月5日(土)	幹部リーダー職員 12名	課題共有と次年度計画策定

5. 2020年度事業報告

基本方針「オールみすみで生産性を向上させよう」、keywordを「着実」とし、ITと各種ツール活用による業務効率化、収益の安定化、病院広報の強化、ESとCSの両立を重点行動目標として取り組んだが、新型コロナウイルスの影響は大きく、入院・外来ともに患者数は減少し、補助金を除いた医業収益は対前年比で約2億円の減収となった。

補助金については、空床補償などコロナ関連で約3億、例年通り交付税も1.4億支給されたため、最終的な当期利益に関しては約3億と過去最高となった。

6. 2020年度活動報告

(1) 主なコロナ対応 (時系列)

- ①帰国者接触者外来 (プレハブ) 設置 4/15完了
3/28撤去
- ②4/16緊急事態宣言：健診センターの業務停止
4/27-5/31
- ③病棟1階を改修し、コロナ病棟化 4/30完了
- ④正面玄関にサーモグラフィ設置 6/05
- ⑤県北部の老健施設クラスター患者の入院受入れ (1例目) 7/30
- ⑥救急外来処置室を疑い患者用に分割改修 9/27完了
※これまでのコロナ患者入院受入数 40名 (7/30-2/17)
- ⑦PCR検査器 (LUMP法) 導入 12/1
- ⑧職員1名の感染にて75名にPCR検査 (全員陰性)
2021/01/28
- ⑨職員へのワクチン接種 2021/4/16完了

(2) 労働基準監督署労務管理調査対応

無作為抽出による事業所選定に該当することとなり、2020年9月15日に「労務管理に関する調査」を受ける。
是正勧告1点、指導1点について2021年3月17日に対応完了。(詳細別紙にて報告)

(3) ITと各種ツール活用による業務効率化

訪問診療には4人の医師が参加しているが、患者宅からリモートで電子カルテに接続
巡回診療については事務と看護師のみ出向き、医師は病院から行うリモート診療を開始

(4) 地域包括ケア病床の病棟化 (2021/4/1～)

1・2病棟を地域包括ケア病棟に変更し、3病棟の一部を地域包括ケア病床とした。
これにより、構成は回復期 (4F) 40床、地域包括61床、急性期一般27床 (計128床)

(5) その他

病室内床頭台の更新 (冷蔵庫付、BS視聴可能) 譲渡条件付レンタル契約
支部事務局収益事業の業務移管に伴う、レストラン、TVカード販売の直営化

6. 2021年度事業計画

基本方針 「連帯とプロ意識で業務変革へ取り組み、環境変化に順応する」

Keyword 「変進」

今までとやり方を変えてみる (IT活用・運用変更・業務移管) 病院の方向性を変えていく (亜急性期～回復期・在宅中心へ) 読めない環境変化へ順応する (with コロナ)

<全体目標>

病床利用率 90%以上

Withコロナafterコロナの業務改善各部署1以上
病院機能評価更新の準備

<重点目標>

①顧客と連携の視点

- ・ステークホルダーとの関係強化
コロナを見据えオンラインを利用した連携システムの確立
(例：連携先とのオンラインカンファレンス、熊本メディカルネットワーク等)
- ・人材確保に向けた病院広報の強化
採用面を重視したホームページを構築する
- ・ES向上
売店・食堂・シエスタ自動販売機等の充実 (営業時間・メニュー等)
職員表彰制度の検討 (サンクスカード、資格取得、学会発表等)
会議室増設の検討
- ・地域貢献活動、社会福祉事業の推進
無料低額診療事業推進のため、市町村生活困窮者担当部署への広報・連携強化を図る
コロナ困窮者への無料低額診療事業の拡大

②財務の視点

- ・病床機能の再編と病床の安定稼働
病床再編後の「病床利用率維持と運用確立・定着」
病床再編後の「入院料施設基準の維持」
入院収益増減の分析

③業務プロセスの視点

- ・生産性向上に向けたITの有効利用と業務プロセスの見直し
現システム機能の最大限の活用 (RPA・AmiVoice・テンプレート等)
新システムの有効活用 (オンライン診療・資格確認・AI問診・発着信表示システム等)
業務プロセスの見直し (効率的な情報伝達・共有方法のルール化と徹底等)
委員会・会議のWeb化の推進 (報告のみはWebで)
- ・QC (カイゼン活動) の推進
withコロナ、afterコロナにおける業務改善
診療/他部署支援体制の見直し (グループ主治医、放射線と検査の相互支援検討等)
委員会や各種会議の統合化の検討
テレワークの推進

④学習と成長の視点

- ・学習環境の改善
eラーニングを携帯で利用出来る環境を構築する
- ・役職者向けの教育の充実
アンガーマネジメント・ハラスメント教育の充実

⑤その他

- ・病院将来計画の再検討
プロジェクトを立ち上げ、将来構想に向けた検討を進める。
(事業・機能・介護・健診・訪問診療・OPE・新規事業など)
- ・病院機能評価に向けた体制づくり
次年度の更新に向けてプロジェクトを立ち上げ、体制を構築する。